

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

東京都

学校名

台東区立桜橋中学校

人権課題

子供

対象学年・
取り扱った教科等中学1年生・特別の教
科 道徳

時数等

1時間

目標・人権教
育のねらい

- ・正義と公正さを重んじ、いじめを許さない強い意識をもち、偏見や差別のない社会の実現に努めようとする態度を育てる。
- ・誰に対しても公平に接し続けようとする必要があることをふまえ、自他の不公正に気付き、それを許さないという断固とした姿勢をもち、よりよい社会を実現しようとする態度を育む。

実施した内容

- ・いじめと「人権」の関係を理解する。
- ・いじめを受けた人の心情を知る。
- ・いじめが被害者や傍観者に残す傷について考える。
- ・いじめの四層構造について知り、傍観者にいじめを止める力があることを理解する。
- ・学習したことを振り返り、自分の考えを深める。

工夫した点

- ・話し合いの際、班による話し合いだけでなく、様々な小グループでの意見交換をさせ、より意見や感想が出しやすい雰囲気作りをした。
- ・スライドを活用し、「ほっとした表情」とはどんな表情なのかという問いについて、他の表情についても考え、心情を察したり思いやったりすることを日常生活で生かせるような取り組みをした。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

- ・ 特別活動の学級活動「（１）学級や学校における生活づくりへの参画」、「（２）日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」と関連させた。

事業成果

- ・ 知識的側面：いじめが人を深く傷つける問題であることを知ることができた。
いじめは周りの観衆や傍観者によって助長される面がある一方、いじめに対して否定的な反応をしたり、被害者を助けたりすることによって、いじめが起きにくくなることを知ることができた。
- ・ 価値的・態度的側面：よりよい学級集団を作ろうとする意欲や態度を養うことができた。
話し合いの中で、お互いにいじめのない集団をつくりたいという思いを共有することができた。
- ・ 技能的側面：問題解決に取り組む力を育めた。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

東京都

学校名

台東区立桜橋中学校

人権課題

障害者・高齢者

対象学年・
取り扱った教科等

中学1年生・特別活動

時数等

6時間

目標・人権教育のねらい

- ・ 障害の有無に関わらず、それぞれに得意不得意があり、それらの「あってもよいちがい」を理解し、大切にできる集団づくりのきっかけとする。
- ・ 暮らしの中にあるバリア、ユニバーサルデザインなどについて学び、障害の有無によらず、相手を尊重しながら共に生きていこうとする態度を養う。

実施した内容

- ・ 外部講師を招き、世の中にある「ユニバーサルデザイン」をテーマに、障害や年齢に関わらず、誰もが生きやすい社会を築いていくために実際になされている工夫を理解する授業を実施した。
- ・ 日常生活の中で目にすることができる「ユニバーサルデザイン」を個別に調べ、掲示物を作成した。
- ・ 個別に作成した掲示物を使用して、クラスの生活班内でひとり一人が口頭発表を行った。さらに、そこで選出された各クラスの代表者がスライドを作成して、学年集会形式でプレゼンテーションを実施した。

工夫した点

- ・ 外部講師による講話を受けて、台東区で発行している「心のバリアフリーハンドブック」等の資料を活用したり、生徒各自の一人1台端末を利用したりして調べ学習を様々な角度から行えるような学習過程を作成した。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

- ・保健体育の授業で、障害や年齢に関わらず生きやすい社会を築いていくためのバリアフリーについての学習を行った。
- ・国語科の授業で、小グループ内で発表したり意見交換をしたりする活動を生かす形で、調べ学習を実施した。

事業成果

- ・知識的側面：障害者や高齢者の暮らしや、そのバリアとなる事柄について理解することができた。
- ・価値的・態度的側面：校内や町中など、日常の生活内でのバリアについて調べたことで、自分にできることはないかと積極的に関わりをもとうとする態度が見られた。
- ・技能的側面：障害や年齢によらず、共に理解し合いながら生きる大切さについて考える力が育ってきた。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

東京都

学校名

台東区立桜橋中学校

人権課題

同和問題

対象学年・
取り扱った教科等

中学2年生・社会科

時数等

2時間

目標・人権教育のねらい

- ・同和問題について学び、職業に対する偏見や差別の解消、地域産業の伝統を尊重する態度を育成する。
- ・互いに尊重し合いながら、よりよい社会を実現するために行動できるようにする意欲や態度を育む。

実施した内容

- ・人権問題としての同和問題について知り、同和問題と地域の伝統文化のつながりについて理解を深めた。
- ・明治政府が近代化を目指して行った諸改革について調べる活動を通して、「解放令」が発令された経緯や、法律の上では身分制度はなくなったが、発令後も人々の差別意識が解消されなかったことを理解した。

工夫した点

- ・差別が江戸時代に存在したことを多数の生徒が中学校及び小学校で学習したので認識している。しかし、現在でも差別が続いていることについて認識する必要があるため、本学習を通して、人権を尊重する大切さに気付き、偏見や差別のない社会の実現により努めようとする実践意欲を育てた。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

- ・総合的な学習の時間において、同和問題の歴史や背景について学習した。その際も職業や出自等に対する偏見や差別を解消し、互いに尊重し合いながらよりよい社会を実現するために行動できるようにする意欲や態度を育成した。

事業成果

- ・知識的側面：同和問題について知り、同和問題と地域社会の歴史や文化とのつながりについて理解を深めることができた。
- ・価値的・態度的側面：同和問題を正しく知り理解することが、平等な社会を作ることに関心、互いに尊重し合い生きていく意欲や態度を育むことができた。
- ・技能的側面：複数の情報を収集し分析する力や、授業を通して自己の意見をまとめて記述したり相手の話を傾聴し理解したりする能力を育むことができた。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

東京都

学校名

台東区立桜橋中学校

人権課題

障害者

対象学年・
取り扱った教科等

中学2年生・特別活動

時数等

6時間

目標・人権教育のねらい

- ・感覚過敏（聴覚）及びADHD（不注意優勢型）の発達障害がある人の生活をVR（仮想現実）で体験することを通して、それらの障害に対する正しい理解を深めると共に、偏見や差別をなくし、人権を尊重しながら共に生きていこうとする態度を育てる。

実施した内容

- ・外部講師の講話及びVR体験で、発達障害がある子供たちの生活上の困難さを体験し、障害への理解を深めた。
- ・障害者への偏見や差別を解消するために、社会生活を送る中でどのようなことができるかを考え、発表した。

工夫した点

- ・特定の生徒の氏名が上がらないように配慮した。
- ・自分自身の感じ方、見え方とは異なる人が周囲にいるということを意識させた。体験を通して、各障害の特徴に当てはまると感じることもあるだろうが、大切なことは自分と他者の違いを認めて、どちらも尊重して社会生活を送ることであるという雰囲気を作り、他者理解を促すように努めた。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

- ・保健体育の授業で、障害の有無に関わらず生きやすい社会を築いていくための共生社会についての学習を行った。
- ・特別の教科 道徳の時間で学んだ思いやりをもって支え合うことの大切さを振り返らせながら指導を行った。

事業成果

- ・知識的側面：社会の中での障害者の現状について理解を深めることができた。
- ・価値的・態度的側面：自分らしく生きることについての意欲を育むことができた。
- ・技能的側面：共生社会の一員として、問題解決に取り組もうとする力を育むことができた。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

東京都

学校名

台東区立桜橋中学校

人権課題

インターネットに
よる人権侵害対象学年・
取り扱った教科等中学3年生・
特別の教科 道徳

時数等

2時間

目標・人権教
育のねらい

- ・情報の発信者と受信者の両方の立場として、モラルと人権意識を高める。
- ・情報の発信者として、情報に対する責任をもつ姿勢を育成する。
- ・情報の受信者として、メディア・リテラシーを高める。

実施した内容

- ・SNSを多くの生徒が利用している状況の中で、実際に上がっている問題点に関連づけて考えさせた。
- ・インターネット上で起こりえるトラブルについて、資料を読みすすめる中で自分の考えを整理して伝えた。
- ・学習したことを振り返り、自分の考えを深めた。

工夫した点

- ・授業の実施にあたり、事前アンケートでSNSの生徒の使用状況を把握し、本時の題材で扱った内容が自分の身の回りにも起こりうることを示した。
- ・スライドを用いて実際のネット上でのやりとりの形を再現した。このことで、パソコン上での状況をイメージしやすくするとともに、自分も見たことがある、やってしまうかもしれないという思いを強調し、身近な題材だと認識できるようにした。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

- ・社会科の授業にて、基本的人権について学習し、差別は人権侵害であるという理解を深めた。

事業成果

- ・知識的側面：情報活用能力について理解を深めた。
人権侵害を予防したり解決するために必要な知識が身に付いた。
- ・価値的・態度的側面：インターネット上の人権問題を自分と関わりのあることと捉え、積極的に社会に参画しようとする態度の素地が育まれてきた。
- ・技能的側面：インターネットに対する考え方には違いがあることを認め、受容しようとする能力が育ってきた。
複数の情報源から精査・分析し、公平な結論に達する力を育成した。